

アートな暑中見舞いをつくろう

書道コース 陶印

目的

- 紙と筆だけで構成される白黒の平面の書から、生活の中に息づく立体の書の作品をつくる。

効果

- 作品を創る喜び、飾る楽しみ、贈った相手とのつながりから生まれる感動を知り、それを大切にすることを学ぶ。

到達点

- 積極的な創意工夫により、発想力を磨く努力をする。
また、失敗は多くを学ぶ大切な経験であることに気づく。



事前学習

陶印の印面と持ち手(鈕=ちゆう)、暑中見舞いの葉書のデザインを考えておく。

ワークショップの流れ (3日間×1コマ/日)

工程の説明、陶土の空気抜き

↓
暑中見舞いに押すための陶印(1)の持ち手(鈕)作成

↓
陶印(1)の絵付けと釉薬(ゆうやく=うわぐすり)かけ
(講師が持ち帰って本焼きし、次回持参)

↓
焼き上がった陶印(1)を印泥等で押して彫り具合を確認

↓
デザインを考えた暑中見舞いに陶印(1)を押し、
「アートな暑中見舞い」を制作

↓
自作書等の作品に押す陶印(2)作成

↓
陶印(2)の絵付けと釉薬かけ
(講師が持ち帰って本焼きし、後日学校へ送付)

事後学習

陶印(2)を使って、書とデザインが融合したオリジナル作品をつくる。



講師
游眠
ゆうみん

略歴

楽形陶印作家・書家
大手雑貨店や百貨店に作品を納め、展示会も随時開催し、夢や心の温かさを伝える陶印作家として人気がある。泉大津市、泉北郡忠岡町で書道教室を開講。大阪府教育センターで書道教諭対象の研修講座の講師を担当。著書に「おしゃれに暮らす」(共著)、「夢印collection」(第1集/第2集 巡一つむいで つないで)など。

advice points

- 印面の文字や持ち手のデザインを前もって考えておくと、当日は作成に集中できてワークショップの内容が充実する。
- 服に絵の具や釉薬が付着しないよう、エプロン等の着用が望ましい。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

作品をより良くしようと、工夫を重ねていく姿勢と気持ちの変化を感じた。生徒たちの陶印を用いた作品はとても上手に作られており、色の使い方も美しい。書くための書ではなく、生活の中に取り入れる書としての認識を高めてくれたようである。回を重ねるごとに生徒の表情が変化していったことが大きな収穫だった。

先生の感想

陶印作りを通して学んだ、作る楽しさや豊かな発想力を、作品だけではなく、全ての意欲につなげていければと思う。ワークショップを契機に、「書道」の授業に対する興味・関心も高まり、他の単元も楽しみにするようになった。生徒たちの作品は、学校のホームページ、文化祭などで、多くの人に観ていただきたい。

生徒の感想

- ・自分がデザインしたハンコが出来上がった時は感激した。
- ・とても親しみやすく楽しかった。想像力が高まったと感じた。
- ・作る途中でアドバイスをしてもらえたのでわかりやすかったし、普通ではなかなか出来ない体験ができて良かった。

より発展的な ワークショップを 実施するために

- 作成した陶印を使って、年賀状やバースデーカードをつくってみる。
- 四季折々の陶印を作り、それを使った画集を編んでみる。
- 自由な発想で、陶印を使ったグラフィックアートを制作する。